

令和7年度 冬季
昇段審査学科問題

五 段

受験番号

記入チェック

1. 次の文章は、「剣道指導の在り方」について述べている。()に適切な語句を入れて文章を完成させなさい。 3点×10＝30点

- ① 自己の(修 養)に努める。
- ② 確固たる(信 念)をもって指導にあたる。
- ③ (愛 情)をもって、誠心誠意、指導にあたる。
- ④ 教えることに(喜 び)を持つ。
- ⑤ 指導を受ける者とともに(修 錬)する。
- ⑥ 個々の優れた(能 力)を見出して指導する。
- ⑦ 心身の発育・発達や年齢及び(性 別)などを考慮して指導する。
- ⑧ (錬 度)や習熟過程を考慮して指導する。
- ⑨ 合理的かつ効率的な指導方法を(工 夫)する。
- ⑩ 評価能力や(審 判)能力を向上させる。

2. 日本剣道形に関する次の各問いに答えなさい。 4点×5＝20点

- ① 太刀の形三本目に仕太刀が軽く入れ突きに萎やすと同時に打太刀の胸部へ突き返した後、さらに突きの氣勢で左足を踏み出してどのように進むか。
(位詰め(くらいづめ))
- ② 太刀の形四本目に打太刀が諸手で仕太刀を突くとあるが、どこを突くか。
(右 肺)
- ③ 太刀の形七本目に打太刀が胸部を突き、仕太刀が打太刀の刀を支えるところがあるが、仕太刀は刀のどの部分で支えるか。
(物打ちの鐔(しのぎ))
- ④ 小太刀の形で打太刀が動作を起こすのは、仕太刀がどのようになるところか。
(入り身になろうとする)
- ⑤ 小太刀の形三本目に右胴に打ってくる打太刀の刀を 左鐔でどのように使うか。分かりやすく説明しなさい。
(すり流し、打太刀の鐔元にすり込む)

3. 「審判員の心得」について一般的要件と留意事項を列挙しなさい。 5点×10＝50点

[一般的要件]

- ① 公平無私であること。
- ② 試合・審判規則、運営要領を熟知し、正しく運用できること。
- ③ 剣理に精通していること。
- ④ 審判技術に熟達していること。
- ⑤ 健康体で、かつ活動的であること。

[留意事項]

- ① 服装を端正にすること。
- ② 姿勢・態度・所作などを厳正にすること。
- ③ 言語が明晰であること。
- ④ 数多く審判を経験し、反省と研鑽に努めること。
- ⑤ 良い審判を見て学ぶこと。

〈出典〉 剣道指導要綱 日本剣道形解説書
剣道試合・審判・運営要領の手引き

令和7年度 冬季
昇段審査学科問題

四 段

受験番号

記入チェック

1. 次の文章は、剣道試合・審判・運営要領に関する内容であるが、
()に適切な語句を入れて文章を完成させなさい。

2点×10=20点

この規則は、全日本剣道連盟の剣道試合につき、「(剣の理法)を
全うしつつ、(公明正大)に試合をし、(適正公平)に審判する」
ことを目的とする。審判の目的は、試合・審判規則を正しく運用し、
「試合による全ての事実を(正しく)判断し、決定する」ことである。
審判員の任務は、適正な試合運営に努め、試合の(活性化)を
図ることである。さらに、審判員の「使命は何か」「任務は何か」
「資格は何か」を(自覚)する必要がある。審判員の判定には、
絶対的な(権限)が与えられている。
したがって、審判員は独善や(主観)ではない妥当性と(客観性)
に基づいた自己の心の(決断)によって判定しなければならない。

2. 日本剣道形に関する次の各問いに答えなさい。 4点×5=20点

- ① 太刀の形一本目に打太刀が仕太刀の正面を打つとあるが、
どのように打ち下ろす気構えが大切であるか。
(柄もろともに打ち下ろす)
- ② 太刀の形三本目に仕太刀が軽く入れ突きに萎やすと同時に打太刀
の胸部へ突き返した後、さらに突きの氣勢で左足を踏み出してどのよう
に進むか。
(位詰め(くらいづめ))
- ③ 太刀の形六本目に打太刀が諸手左上段に振りかぶり、仕太刀は
一步進むとあるが、進んだ時、剣先はどこにつけるか。
(左拳(こぶし))
- ④ 小太刀の形で打太刀が動作を起こすのは、仕太刀がどのようにな
ろうとするとところか。
(入り身になろうとする)
- ⑤ 小太刀の形三本目に、打太刀が正面に打ち下ろすと、仕太刀は
その刀をどのようにするか。
(いったんすり上げて打太刀の右斜めにすり落とす)

3. 剣道試合・審判細則に関して、次の各問いに答えなさい。

2点×5=10点

- ① 試合者の赤および白の目印は全長(70)cmとする。
② 有効打突の取り消しは打突後、必要以上の余勢や有効を
(誇示)した場合などとする。
③ 相手の竹刀を握る、または自分の竹刀の(刃部)を握る
ことは禁止行為である。
④ 故意に時間の(空費)をすることは禁止行為である。
⑤ 倒れた時に、身体の一部が境界線外に出た場合は
禁止行為である。

4. 「打ち込み稽古」と「掛かり稽古」の違いについて述べなさい。

50点

「打ち込み稽古」は、元立ちの与える打突の機会をとらえて正しい姿勢で

適切な間合から大技で一本打ちや連続技、体当たりや引き技などを織り

混ぜて正確に打ち込み、打突の基本的な技術を体得する稽古法である。

「掛かり稽古」は、元立ちに対して、打たれたりかわされることなどを一切

考えず習得したすべてのしかけ技を使って、短時間に気力を充実させ

体力の続く限り全身を使って打ち込む稽古法である。

※審査員の裁量で採点

〈出典〉 剣道試合・審判・運営要領の手引き 日本剣道形解説書
剣道試合審判規則/同細則 剣道指導要領

令和7年度 冬季
昇段審査学科問題

三段

受験番号

記入チェック

1. 次の文章は「有効打突」および「竹刀の打突部」の規則である。

()に適切な語句を入れて文章を完成させなさい。

5点×5＝25点

有効打突は、(充実した氣勢)、(適正な姿勢)をもって竹刀の

打突部で打突部位を(刃筋正しく)打突し、(残心)あるものとする。

竹刀の打突部は(物打ち)を中心とした刃部(弦の反対側)とする。

2. 日本剣道形の太刀の形に関する次の各問いに答えなさい。

5点×5＝25点

- ① 一本目に仕太刀が剣先を打太刀の顔の中心につけるとあるが、「顔の中心」とはどこか。

(両眼の間)

- ② 太刀の形三本目に仕太刀が軽く入れ突きに萎やすと同時に打太刀の胸部へ突き返した後、さらに突きの氣勢で左足を踏み出してどのように進むか。

(位詰め(くらいづめ))

- ③ 四本目に打太刀が諸手で仕太刀を突くとあるが、どこを突くか。

(右 肺)

- ④ 五本目に打太刀が諸手左上段から仕太刀の正面を打つとあるが、どこまで切り下げる心持ちで打ち下ろすか。

(顎(あご)まで)

- ⑤ 六本目に打太刀が諸手左上段に振りかぶり、仕太刀は一步進むとあるが、進んだ時、剣先はどこにつけるか。

(左拳(こぶし))

3. 次の文章のうち、禁止行為(反則)に該当するものは○、そうでない

ものには×を()に記入しなさい。

2点×5＝10点

(×)片足の半分が境界線外に出た場合

(○)自分の竹刀の刃部を握った場合

(×)相手から体当たりをされ 境界線内の床に倒れた場合

(○)倒れたとき、相手の攻撃に対応することなく、うつ伏せなどになる。

(○)倒れたときに 身体の一部が境界線外に出た場合

4. 稽古法の種類を四つ答え、簡単に説明しなさい。

40点

1.(基本)稽古・・・切り返し、約束稽古、打ち込み稽古、掛かり稽古等

2.(互格)稽古・・・地稽古などとも言われ、技術や気力の互格な者あるいは互格に近い者同士がすべてを出して、対等の気持ちで勝負を争う稽古法

3.(引き立て)稽古・・・元立ち稽古とも言われ、指導者が元に立って初心者や下位の者が上達するよう引き立ててやる稽古法

4.(試合)稽古・・・習得したすべての技を試合においても自在に発揮できるようにするために、実際の試合と同じように勝敗を競い合う稽古法

※審査員の裁量で採点

〈出典〉 剣道試合審判規則/同細則 日本剣道形解説書
剣道指導要領

令和7年度 冬季
昇段審査学科問題

二段

受験番号

記入チェック

1. 次の文章は、「剣道修錬の心構え」について述べているが、()
に適切な語句を入れて文章を完成させなさい。 3点×5=15点

剣道を正しく真剣に学び (心身)を錬磨して
旺盛なる(気力)を養い 剣道の特性を通じて
(礼節)をとうとび (信義)を重んじ 誠を尽くして
常に自己の(修養)に努め
以って 国家社会を愛して
広く人類の平和繁栄に寄与せんとするものである。

2. 次の文章は、日本剣道形による太刀の形の五本目を述べている。
()適切な語句を下記語群から選び文章を完成させなさい。 2点×10=20点

打太刀は諸手(リ)、仕太刀は中段で、打太刀は左足から
仕太刀は右足から、互いに進み、(ヌ)に接したとき、打太刀は
(ホ)右足を踏み出すと同時に諸手左上段から、仕太刀の正面を打つ。
仕太刀は、左足からひくと同時に(チ)で打太刀の刀をすり上げ、
右足を踏み出して(ニ)を打ち、(イ)をひきながら諸手左上段に
振りかぶって(ロ)を示す。
打太刀が剣先を(ハ)につけ始めるので、同時に仕太刀も
(ヘ)をひいて剣先を中段に下ろし、(ト)になる。
打太刀は左足 から、仕太刀は右足から小足三步で、
刀を抜き合わせた位置にもどり、剣先を下げて元の位置にかえる。

イ. 右 足 ロ. 残 心 ハ. 中 段 ニ. 正 面 ホ. 機を見て
ヘ. 左 足 ト. 相中段 チ. 左 鐙 リ. 左上段 ヌ. 間 合

3. 剣道における攻撃の「打突の好機」について書きなさい。 3点×5=15点

- ① 相手の技の(起こり)
② 相手の技の(つきた)ところ
③ 相手が(居ついた)ところ
④ 相手が(ひいた)ところ
⑤ 相手が技を(受けとめた)ところ

4. 次の文章は、「礼」について述べたものである。()に適切な語句を
下記語群から選び文章を完成させなさい。 2点×5=10点

社会秩序を保つための(ホ)規範。(ロ)に敬意をはらった立ち居
ふるまい。「(イ)に始まり礼に終わる」とは剣道において、相手に対し
(ニ)をあらわす礼とその(ハ)の重要性を説いたことばである。

イ. 礼 ロ. 相手 ハ. 作法 ニ. 敬意 ホ. 生活

5. 「切り返しの目的」について述べなさい。 40点

切り返しは、正面打ちと連続左右面打ちを組み合わせた剣道の基本的動作
の総合的な稽古法である。

正しい切り返しは、剣道の「構え(姿勢)」、「打ち(刃筋や手の内の作用)」、
「足さばき」、「間合のとり方」、「呼吸法」さらに「強靱な体力」や「旺盛な気力」
などを養い「気剣体一致の打突」の習得を目的とする。

※審査員の裁量で採点

令和7年度 冬季
昇段審査学科問題

初 段

受験番号

記入チェック

1. 全日本剣道連盟の「剣道の理念」について、述べなさい。

10点

剣道は、(剣の理法の修錬による人間形成)の道である。

2. 次の文章は、「剣道修錬の心構え」について述べているが、()に適切な語句を下記語群から選び文章を完成させなさい。

2点×5=10点

剣道を正しく真剣に学び (ロ)を錬磨して
旺盛なる(ハ)を養い 剣道の特性を通じて
(ニ)をととび (イ)を重んじ 誠を尽くして
常に自己の(ホ)に努め
以って 国家社会を愛して
広く人類の平和繁栄に寄与せんとするものである。

[イ. 信義、ロ. 心身、ハ. 気力、ニ. 礼節、ホ. 修養]

3. 次の文章は、「竹刀・木刀の持ち方と構え方」について述べたものである。()に適切な語句を下記語群から選び文章を完成させなさい。

2点×5=10点

竹刀や木刀の正しい持ち方は、左手の(ハ)を柄頭いっぱいにかけて上から握り、小指、(ホ)を締め、中指を軽く締め、そして人差し指と(ロ)は軽く添えるようにする。
両手とも(ニ)と親指の分かれめが竹刀の弦の延長線上にあるようにする。
両肘は張り過ぎず、すばめ過ぎず、伸ばし過ぎずの状態、力を入れ過ぎないように(イ)を持たせて構える。

[イ. ゆとり ロ. 親指 ハ. 小指 ニ. 人差し指 ホ. 薬指]

4. 次の文章は、日本剣道形による太刀の形の1本目を述べている。
()適切な語句を下記語群から選び文章を完成させなさい。

3点×10=30点

打太刀は諸手(ハ)、仕太刀は諸手(リ)で、打太刀は左足、仕太刀は右足から、互いに進み、(ヘ)に接したとき、打太刀は(ホ)右足を踏み出し、仕太刀の(イ)を打つ。

仕太刀は左足から体を少し後ろに(ニ)でひくと同時に、諸手後ろにひいて、打太刀の剣先を抜き、右足を踏み出し、打太刀の正面を打つ。打太刀が剣先を下段のまま(チ)で一步ひくので、仕太刀は、十分な気位で打太刀を押しながら、剣先を(ヌ)につけ、打太刀がさらに一步ひくと同時に、左足を踏み出しながら、諸手左上段に振りかぶり(ロ)を示す。

打太刀が剣先を下段から中段につけ始めるので、仕太刀も同時に左足をひいて諸手左上段を下ろし、(ト)となり、剣先を下げて元の位置にかえる。

[イ. 正面 ロ. 残心 ハ. 左上段 ニ. 自然体 ホ. 機を見て
ヘ. 間合 ト. 相中段 チ. 送り足 リ. 右上段 ヌ. 顔の中心]

5. 剣道をやって良かったことを書きなさい。また、剣道を通しての今後の目標を書きなさい。

40点

※審査員の裁量で採点